

## 国際協力特別賞

# 日本人らしさを大切に

成蹊中学校 2年 中村 晶

紛争で傷ついた子供達、地球温暖化による自然災害等の報道を目にする度「世界の人々を助けたい」と思う。その為には、世界と繋がれる「国際人」になる必要がある。国際人とはどんな人か。辞書には「国際的に活躍している人」とある。国際的に活躍する人になるにはどうしたらよいのか。

私は小学校時代アメリカに住んでいた。そう言うと「帰国子女？すごい！」という反応が来る。私は、帰国子女で得をしていてすごいのだと浮かれ、国際人として一歩進んでいる気でいた。しかし、帰国子女であることは国際人に近づいていることなのか？今回、アメリカでの経験を思い出し、むしろ遠のいているかもしれないとすら思った。

アメリカでは「マルチカルチャルナイト」があった。自分のルーツの国の文化を披露する多民族国家ならではの行事で、私は着物を着ておにぎりを売り、腕に漢字のタトゥーを書いてあげた。目を瞑り恐る恐るおにぎりを食べ美味しさに感動する子、タトゥーを見て「この漢字なんて読む？」と嬉しそうなお子。そんな時、私は「皆が日本文化に興味を持ち日本を知りたがっている。日本人でよかった。」と感じ、日本についてもっと勉強し、語れる人になりたいと思った。

また、学校は多様性に溢れていた。人種の面だけでなく、車椅子の子、色々な特技を持つ子等様々なタイプがいて、個性が尊重されていた。例えば音楽会で舞台に出たくない子は先生の手伝いでよい等、自分の性格を堂々と主張する雰囲気だった。多様性が認められ自分らしさを追求できる環境では皆が活躍しやすくなると感じた。私も日本人らしさを強みの一つにしていた。

しかし、帰国後は、周囲の期待もあり帰国子女風の自分を演出し日本人としての自分を消そうとすらしていた。皆の欧米への憧れの強さに自分も乗った。最近では海外大学進学の為英語で教える学校も人気ようだ。日本の国力が衰え脱出したい人が多いのかもしれない。皆が欧米人らしくなる方向に向いているようだ。果たして欧米人らしくなった日本人が国際的に活躍できるのか。アメリカでの経験を思い出すとむしろ逆かもしれないと思う。誰かの真似をするより、自分らしさを前面に出した方が無理なく人は活躍できると思うからだ。

多様性を重視する世界で、真の国際人となるには、日本人としての誇りを持ち、日本人として何を発信できるかが大事なのではないか。英語の発音等も二の次なのかもしれない。実際、私は発音をほめられてもあまり意味を感じない。海外では、ルーツや文化等自分の軸を大切にし、日本人らしくいる方が、自分を活かすことが出来、世界に貢献できるのではないか。私は、帰国子女の肩書にとらわれず、むしろ日本人らしさを強みに世界に貢献したい。そのように考えること自体が小さな一歩だと思う。日本人らしさとは何かを考えることが次のテーマだ。